



桐朋
幼稚園

一人ひとりの、
幸せな子ども時代のために





一人ひとりの、 幸せな子ども時代のために

子どもは、安心して自分を出せる場で、挑戦してみよう、失敗してもやり直せると試行錯誤して、自分を豊かにしていきます。やりたい！ やりたいけどできない、もっとやりたい！ もっと知りたい！と、好奇心を育み、達成感や満足感を味わいます。楽しい、うれしい、悲しいなどいろいろと感じて心を豊かにします。

そして、ありのままの自分を愛することができるようになり、周りの人の心を大切にしていけるようになります。友だちや大人とかかわり、違いを認め合い、豊かな世界をつくり出します。

さまざまな経験が、人間形成、社会生活の基礎・基本となります。

一人ひとりが幸せな子ども時代を過ごし、幼児期にしっかりと生活のなかに根を張ることは、その子のこれからの人生を生きていくための力強い支えとなります。

私たちは、子ども自身の心の動きや考えを尊重し、自分で立ち上がり歩み出すことを大切にします。子どもが地に足をつけ、「生きるために必要な根」を育てていきます。子どもは、言葉だけでなく、さまざまな形で思いや願いを表現しており、それを受けとめます。「保育の原点は子ども」であり、かけがえのない一人ひとりです。

私たちは、大きな願いとして、保育を通して命を大切にする幸せな世界を、地球を大切にする平和な世界を、築いていきたいと思えます。

安心を土台に自分の世界を広げる

初めての幼稚園。新しい環境に、子どもも大人も、少なからずドキドキしたり、不安になったりすることもあるでしょう。焦ることなく、子ども一人ひとりが、幼稚園を「自分の居場所」「幼稚園って楽しい」と思い、「こんなことやってみたいな」と、自分のやりたいことを見つけ、じっくり楽しむことを大切にします。

子どもは、身近な人とのかかわりのなかで「この人は自分に応じてくれる人なんだ」と信頼を寄せ（相手への信頼）、同時に「自分は、応じてもらえる存在なんだ」と感じていきます（自分への信頼）。育ちのなかで、この「基本的信頼」の感覚はとても大切で、これを土台に、安心して「こんなことやってみよう！」と自ら動き出します。「自分で決めたい」という思いが芽生えます。

幼稚園という新しい環境においても、安心して過ごすなかで、保育者との信頼、そして友だちとの信頼を築いていき、自分（自分たち）の世界を広げていきます。

私たち保育者は、そうした子どもたちの姿を見守り、ときに励ましなが、支えます。





自然のなかで遊び、未来をつくる

桐朋幼稚園の園庭や、初等部の「しぜんひろば」には、数多くの樹木や草花、いきものがいます。四季の移ろいは、私たちの暮らし、子どもたちの遊びを豊かにしてくれます。鳥や虫の鳴き声、風の音、木の葉が揺れる音、日なたの暖かさ、日陰の心地よさ、夏と冬の日差しの違い、落ち葉のにおい……。それらを五感でたっぷり感じながら3年間を過ごします。

しかし、近年は猛暑が長く続くなど、心地よく過ごせる時期が短くなってきているとすら感じます。気候変動と呼ばれるこの状況が続けば、生態系が壊れ、日常生活の基盤が崩れる危険性があります。私たちは、これからの「地球」のこと、「未来」のことを考えていかねばなりません。

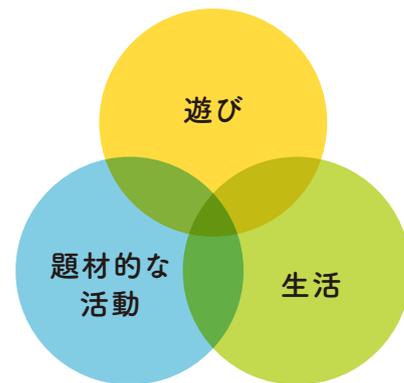
感性が豊かに育っていく幼児期に自然を身近に感じ、自然のなかで心ゆくまま遊ぶことで、子どもたちはたくさんを感じ、学んでいます。自然のなかで楽しく遊んだ経験や、それが心地よくて自分たちにとって必要なものだという実感や、これからの未来をつくっていく子どもたちに、じゅうぶんに感じてほしいと願っています。



桐朋幼稚園で大切にしていること

「遊び」「生活」「題材的な活動」が柱です

桐朋幼稚園の園生活は3つの分野で構成されます。室内でゆったりとままごとをしたり、自然豊かな園庭で思う存分やりたいことを楽しむ「遊び」。「生活」は身の回りのことをしたり、飼育活動や掃除、片付け。そして「題材的な活動」は造形や音楽、運動、栽培など子どもの実態や生活に沿って選定したものを、子どもが主体的に取り組むことを大事にした活動です。これらが混ざり合った日々を楽しむことにより、子どもたちのいろいろな側面が豊かに育っていきます。



実体験・本物に 触れることを大切に

土に触れながら芋掘りをしたり、かまどに火を起してもち米を蒸し、みんなで楽しくおもちをついたり……、こうした素朴な原体験を、生活の根っこと考えています。園庭の木々になる実を収穫してジャム作り。自然物を使っての染物。合宿の時には包丁で野菜を切ってみる。年長になったら毎日動物の世話をする。集中してやらなければならないかったり、慎重になったり、園生活のなかでのさまざまな“実体験”や“本物に触れる”ということを大切にしています。

このような本物に触れる経験の一つに、豊かな音楽との出会いがあります。遊びのなかでやりたい人が満足するまで楽器遊びをしてイメージをひろげたり、みんなで合奏することでクラスのみとまりを感じたり、



桐朋幼稚園の年長組の保育室の壁一面は楽器棚になっており、数えきれないほどの質のよいいろいろな種類の楽器があります。

充実感を得られたり。体も心も動かして音を楽しむ経験を積み重ねています。また、歌うことで楽しくなることを何より大切にしています。「歌うって気持ちいいな」「みんなの声が合わさると、とってもすてきだな」などと、心地よく感じられ、活力が湧いてくるような、友だち同士のつながりを意識できるような、音楽のある生活をつくっていくことを考えています。

行事も生活の一部

「遊び」「生活」「題材的な活動」という3つの分野が混ざり合った園生活の延長に行事があると考えます。日々の遊びや生活の積み上げのなかで、3歳児では安心をベースに少しずつ楽しさを体験し、5歳児になると自ら心を動かし、仲間と共に思考しながら挑戦しようとする姿につながっています。見せることが優先ではなく、「プレイデー（運動を楽しむ日）」、「音楽を楽しむ会」などのきっかけが、子どもたちの喜びややる気、がんばる力を発揮する機会になっています。





幼稚園の生活は、こんな毎日です



登園 9:00~9:20

子どもたちは登園の道すがらおうちの人と一緒に四季を感じながら、毎朝期待に胸をふくらませて幼稚園にやってきます。身支度をして、早速ひと遊び。



朝の会

朝の会では、お休みを調べたり、歌を歌ったり、先生や友だちの話の聞いたりする楽しい時間です。さあ今日も幼稚園でいっぱい遊ぼう！ そんな気持ちでだんだんふくらんでいきます。

みんなで一緒に

子どもの育ちを見ながら、計画に基づいて、そのとどきに合った活動を子どもたちに提案し、一緒に取り組んでいきます。絵を描いたり、工作をしたり、歌や合奏をしたり、しぜんひろばに遊びに行ったりと、いろいろな活動に取り組みます。

いっぱい遊ぼう

友だちと一緒に遊ぶ。一人で遊ぶ。遊びは子どものしごとであり、子どもは遊びの天才です。じっくり、ゆったり、のびのびと遊ぶ時間を大切にしています。泥んこ遊び、追いかっこ、ままごと、お店やさんごっこ、こま回し、毎日心ゆくまで遊びます。





お弁当 12:00

子どもたちの大好きな時間です。お弁当の回数や時間は時期によって変動します。みんなで一緒にする食事の準備、後片付けも大切な経験です。音楽を聴きながらの落ち着いた雰囲気の中で、食事のマナーも身に付けていきます。食べ終わった後の「物語の読み聞かせ」も、子どもたちがとても楽しみにしているひとときです。



おしごと

毎日、飼育動物の世話やテラスや廊下の雑巾がけなどを、年長クラスのみんで分担しておこないます。世話や掃除をし続けることで、動物に対する愛着や自分たちで生活を作っていくという意識も深まっていきます。



帰りの会

降園時間の前にみんなで歌ったり、紙芝居を見たり、みんなで楽しいひとときを過ごします。一日の終わりに当たって、今日の出来事を振り返り、明日の園生活への思いを確かなものにします。



幼稚園ではこんなことをしています



入園式

入園する子どもたちやおうちの方にとって新しい出会いの日です。泣いてもいいよ。いっぱい遊ぼう！



誕生会

月1回全学年が集まって誕生日をお祝いします。



春の遠足

新緑あふれる自然たっぷりの世界を楽しみます。



秋の遠足

年齢に応じた遠足を考えています。さわやかな秋の一日を過ごします。



◀ プレイデー ▶

6月と10月の2回、プレイデーが開かれます。この日はみんなで一緒に運動を楽しみます。



◀ 音楽を楽しむ会 ▶

日頃から親しんできた音楽を子どもたち、おうちの方、保育者、みんなで一緒に楽しめます。



◀ 修了式・進級式 ▶

年長児は園長先生から一人ずつ修了証書を手渡されます。一人ひとりの成長をみんなでお祝いします。年少児・年中児は3月に進級します。



ゆっくりじっくり育ち合っていく

2018年度より2年保育から3年保育に移行し、全園児のなかに、3歳、4歳、5歳、6歳の年齢の幅ができました。

おうちの方と離れがたくて涙を流している3歳児を見つけて、「どうしたの？ママと離れるのさびしいの？」と優しく声をかけてあげる年上の子がいます。「うんていにのぼったら、おりられなくなっちゃったみたい」と慌てて保育者を呼びに来る4歳児がいます。

異年齢が行き来する環境では、相手に心を寄せてその子のことを知ろうとしたり、受け止めたり、手を差し伸べようとする姿も多くみられるようになりました。また、子ども同士のなかから、「憧れ」「自分もやってみたい」「挑戦したけれど、歯が立たない」「繰り返しやってみる」「できるから教えてあげる！」「一緒にやってあげるね！」「今は見てるね」といった姿が生まれやすくなりました。

共に暮らすなかで、自分とは違う仲間の存在に気がついていきます。時には、思いの違いに行き当たったり、「大好きだから一緒に遊びたいのに、うまくいかない」といった切なさを味わうこともあります。何度も経験するなかで、折り合いをつけられるようになります。仲間と暮らしていくにはどうしたら居心地よく過ごせるかといったことを子ども自身が見つけていきます。一人ひとりの発達の道筋やペースで、ゆっくり、じっくり育ち合うことを大切にします。



3歳児(たんぼぼ組)



5歳児(ゆり組)



4歳児(ばら組)



園は子どもの生活の場 安心を土台に葛藤経験も 大事に考えます

幼稚園が安心できる場になると、子どもは自ら動き始めます。身支度をしたり、親しみを感じている友だちの隣に座ってみたくくなります。やりたいことをみつけて自分のペースでじっくり遊ぶ人もいます。またある人は、自分のしたいことを、大好きになったお友だちと一緒にしたいけれど、その子は別の遊びがしたいと主張されてしまうと、そこには葛藤が生まれます。そういった葛藤が生じるのも友だちと過ごす幼稚園生活の大事な場面だと捉えています。

園生活には、楽しいことがいっぱいですが、仲間がいるからこそ、ままたまなない気持ちやぶつかり合いもあります。すれ違いやぶつかり合いを調整してむすび合うことも、幼児期にこそ大切にしたい経験です。



「みんな」がいて 「わたし」になる

今はできなくても、がんばれば、いつかできる。
自ずとそう思える人になっていくことを願っている。

できる自分も、できない自分も、受け入れて応えてくれる子どもや大人がいる。周りの人や自分を信じて、「わたし」はありのままに「わたし」でいられる。

「みんな」と共に生活するなかでいろいろなことに出会い、心や身体から「する」や「しない」が湧き出てくる。自分で「する・しない」を決めることは、わたしの「意志」を育てていく。

誰かに期待されてできることはたくさんある。けれど「する・しない」をわたしが決めたなら、たとえ「できない」になったとしても、それも「わたし」として引き受ける。

わたしの意志は、みんなのなかで、つながり、ひろがり、ふくらんでいく。

自分ができないことを誰かに頼ったり、誰かができないことを自分が助けたり。それは「応えてくれる」と信じているから、自ずと「お互いさま」になる。そうやって「わたし」は「わたしたち」にもなって、励まし合い、「いつか」へ向かって、繰り返す、やり直し、挑戦し、願いを叶えていく。

桐朋幼稚園を修了した方に聞きました

●ゆり組合宿が、とても印象に残っています。先生と一緒にスーパーへ、カレーの具材を買いに行きました。雨がふった時は、すごく大きな水たまりができていました。

僕のマークは「カブトムシ」でした。そのマークはかわいかったけれど、実物は怖かったです。ドロケイで遊んだりして、あの頃はとても楽しかったです。できることなら、また幼稚園に戻りたいです。(2018年度修了生 STさん／桐朋中学に在学中)

●桐朋はまさに私の実家であり、たくさんの楽しかった思い出で埋め尽くされています。幼稚園時代に始めたヴァイオリンを今でも続けることができてるのは、絶対に休みたい、と思うほど居心地のよい桐朋幼稚園の存在が大きく、毎日続けることの大切さを自然と育ててくれたのだと思います。

それは桐朋小学校、桐朋女子中学校でも、遅刻や欠席をしたくないという私の性格を形成する元となり、ヴァイオリンの練習も同じように続けてきたことで、音楽家として今でも大好きな桐朋に通い





続けています。(2009年度修了生 RMさん／桐朋学園音楽学部
在学中)

●幼稚園で楽しかったのは、毎日園庭で遊んだことです。泥団子を作ったり、ドロケイをやったり、ダンゴムシやモグラの死骸を見つけてみんなでお墓を作ったことも。あと、コマ回しができるようになって、上手く回せるようになったのが、とてもうれしかったです。

決められたことをするというよりも、やりたいことを自分で見つけて満足するまでそれをやれたことで、自分で選ぶこと、コツコツ積み重ねてきた時の喜びを知ったことは、今の自分にも生きているのかなと思っています！(2006年度修了生 RYさん／医学部に在学中)

●印象に残っているのは、モルモットや烏骨鶏、ウサギを飼育したことです。毎日掃除や餌やりをみんなで分担してかわいがっていました。烏骨鶏が卵を産んだ時はみんな大喜びでした。また、野菜を育てて成長する様子を観察するのも楽しかったです。

充実した園施設と豊かな自然のなかでの、さまざまな体験を通

じて、チャレンジすることや何かに没頭することの楽しさを知れたことは、今につながっていると思います。(2003年度修了生 RAさん／建設会社の研究職として活躍中)

●「型にはめないこと」を、先生方は徹底してくださっていたと思います。幼稚園の劇では女子なのに王子様役をやらせてもらい、小学校では最高学年ではないのに自治で委員長をやらせてもらったりしました。

正解はひとつじゃないし、「みんな違って、みんないい」。だから、私たちも一般常識にとらわれたり、大人があらかじめ決めた予定やルールありきとは考えない人に育った気がします。まずは自分で考えてみる。いいと思えば自発的に何か始めたり、選ぶ、そんな癖がついたかもしれません。

多様性、不確実性が高まっているといわれる世のなかでも、「なんとかなる」という自信が自分の心の底にあるような気がしています。それは桐朋の14年間で型を押し付けられない、個々を尊重してもらえる日々を過ごしたからなんだろうな、と思います。(1977年度修了生 NTさん／3人の娘さんも桐朋幼稚園修了生)

※カッコ内は、2025年時点。



桐朋幼稚園修了生の 保護者に聞きました

●桐朋幼稚園に入園して、たんぼぼ、ばら、ゆりと過ごすなかで、自分のものさしをゲットしていきました。その小さなものさしで一生懸命考えながら、あれこれ生意気に意見してることが面白くてうれしくてたまらないです。主張せず育てやすい子ではなくなりましたが、本当にすごい武器を手に入れたなと感謝の気持ちでいっぱいです。

●友だちのかかわりが心配で、そんな娘を見守るなか、時には涙してしまうこともありましたが、たくさんの経験、葛藤のなか、娘なりに自分の気持ちに向き合ったり、考え、選択しながら、大人が教えようとして学べることではない大切なことも吸収していったのだと思います。



●うちの子は大丈夫なのかな、と不安がつきまとう子育てですが、「そのままでもいいんだよ」「ゆっくり自分のペースでね」「ずっと見守っているよ」という安心できる場所が幼稚園でした。「あ、失敗したな」「間違ってしまったかも……」という大人に対しても、「大丈夫」と言ってもらえる場所でした。

●「今日も一人で遊んだ」とか「誰も遊んでくれない」など、ネガティブワードもたくさん聞きました。ですが、そのうちあることに娘は気づきました。「みんな違って、みんないい」と。誰かと同じことをしなくてとは娘もあせっていたと思います。

自分の好きなことを思いっきりすることが楽しい！と気づいてからは、「みんな違って、みんないいんだね！ それってイネ！」と明るく話してくれた時、とても安心したことを覚えています。と、同時に心の扉が解放されたんだなと本当にうれしく感じました。



家庭とのつながり

保育参加参観

学期に1回ずつ、年3回、「保育参加参観」の日を設けています。「保育参観」だけでなく「参加」することで、幼稚園で遊び、生活するわが子や子どもたちの気持ち、育ち合う様子を共に味わってほしいと願っています。

《保護者より》

「子どもの幼稚園での遊びと一緒に混ぜてもらい、家とは違う子どもの姿やお友だちとのやり取りに子どもの成長を実感します。いつも楽しみにしています」
「わが子の様子はもちろん、ほかの保護者の方の子どもたちへのかかわり方を見られて、学びにあふれた時間でした」

クラス懇談会

保育参加参観と同日に実施、学期ごとに1回ずつおこないます。保育活動のねらいや子どもたちの様子を共有したり、子育てにまつわるひとつのテーマを保護者と保育者で懇談し、深めることもあります。

《保護者より》

「園での様子や表情を写真で見せていただいたり、子どもの成長や育児の悩みを先生やほかの保護者と共有できました」
「幼稚園での子どもたちの様子を写真で見せていただいたり、その年齢の子どもの発達の特徴などエピソードも交えてお話してくれることで、今はこういう時期なのか、と不安が解消されます」

個人面談

子ども一人ひとりの育ち、変化を、各ご家庭の保護者と園職員で話しながら、共有します。年に2回、その機会を設けています。

《保護者より》

「先生目線のその年齢に合った子どもの育ちを教えてもらうことができ安心します。また日常生活の細かな様子も聞けて楽しい時間です」
「情報共有してくださる様子からいつも、子どもを一人の人間として尊重してくださっているんだなと強く感じます」

日常のつながり

毎日の送迎時や連絡帳を通じて、日頃の様子や変化をタイムリーに共有できることを大事に考えます。園と家庭、各々の場の様子から子どもを捉えられるよう、園と家庭が信頼関係を築いていきたい思います。

また、幼稚園からご家庭へ「クラス通信」「桐の葉」というおたよりを通じて、クラスの様子、行事、連絡事項など定期的にお伝えしています。

《保護者より》

「連絡帳に書くまでではないようなことでも、朝のちょっとした時間に先生とお話しさせていただいたり、時には先生のほうから保育中にあったことをお話していただいたのは、家とはちょっと違う息子の姿を垣間見れたりして、ありがたい時間でした」
「連絡帳に書くことでゆっくり先生方へ気持ちを伝えられるのがいいです。また、読み返すこともできるので、思い出になると思いました」
「(クラスだより、園だよりを通じて) 桐朋学園で大切にしていることを子どもたちの成長を交えて、写真つきで書いてあり、とても楽しく読んでいます」
「(クラスだより、園だよりを通じて) 普段聞くことのできない先生方の思いやできごとを知る機会になり、いつも読むのが楽しみです。写真を見ることで園生活も垣間見えます」



学ぼう会

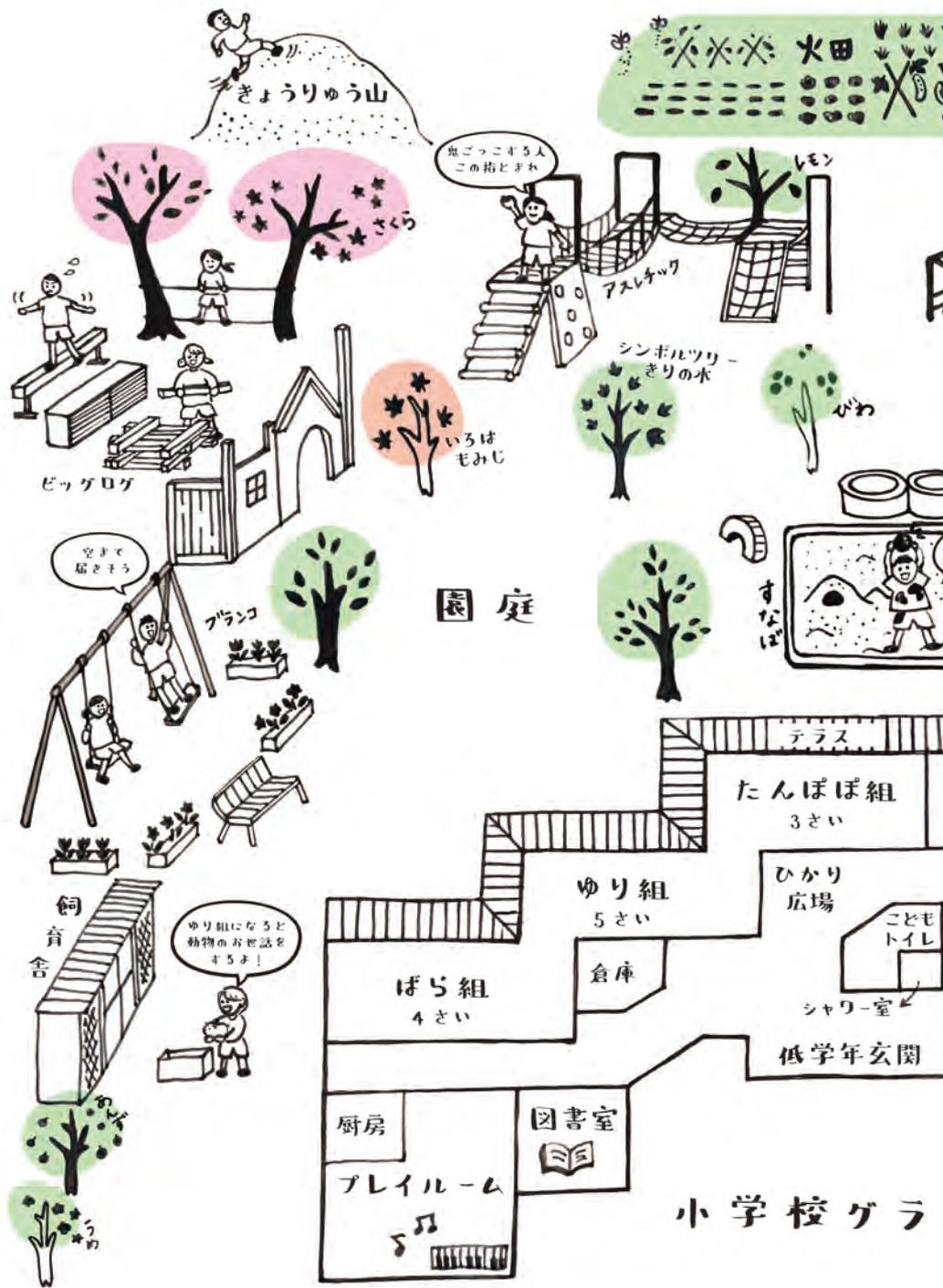
PTA委員と園が協同で企画、実施する「学ぼう会」を年に2回おこなっています。子育てのことから芸術に触れる機会など、その内容は多岐にわたります。

◇過去のテーマ例

- ・今こそ考え合いたい「子どもの権利」とは「原点に子どもを」とは
- ・日常にあふれる子どものあrawし 子どもたちに「今」大切にしたいこと

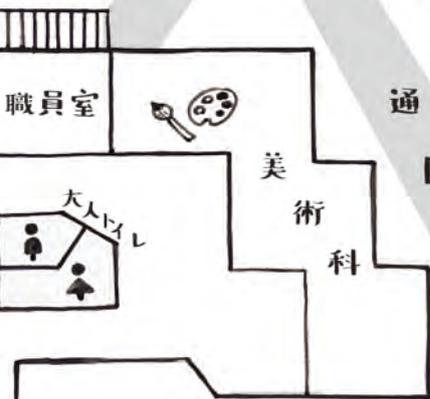
《保護者より》

「子育てに追われる日々のなかで、新しい学びやリラックスを得られる時間です」
「私はPTAの役員としても参加させていただき、保護者の声を反映させて『学ぼう会』を開催していただき、保護者と幼稚園の橋渡しとでもいいますか、そんな役割ができたような気がして、とてもいい経験になりました」



小学校ケラ

／ 在園の子どもたちの声をもとに作りました ／



ウンド



マップ作成…中村知紗子(修了生保護者)



一貫教育だからこそ、 その子らしい育ちを

幼小一貫教育

初等部で大切にしていること

1955年創設時より、幼稚園と小学校は初等部として、原点に子どもをおき、一人ひとりに寄り添う教育をおこなってきました。

幼児期から児童期にかけて、自然そのものとふれ合うこと、実際に事物に触れること、身体をくぐらせることを大切にしています。

園庭の先に、小学生の畑があります。小学生が育てる作物の周りには、カナヘビ、カマキリ、バッタなどたくさんの生物がいます。一緒になって探すことや小学生が捕まえるところを見ている。園舎の2階が1、2年生の教室です。小学生が降りてきて、一緒に遊ぶこともあります。しぜんひろばでは、小学生に手製ブランコを押しってもらうことや小学生に憧れて石渡りに挑戦する姿が見られます。

日頃からお互いの様子を見られ、感じられる場所で共に生活をしています。

幼小の教職員が協働し、お互いの子どもの様子、活動や授業を学び合います。子どもの育ちにじっくり向き合い、支えています。



推薦制度について

受験体制に巻き込まれずに、 自分づくりを

私たちの園には、推薦制度があります。桐朋幼稚園より桐朋小学校への推薦を受けることができる制度です。

私たちの学園では、幼児期、児童期、青年期、それぞれの時代にふさわしい育ちが必要であると考へ、その発達の時期にふさわしい課題を追究した保育、教育を展開しています。

推薦制度によって、受験教育の体制に巻き込まれることなく、長い期間をかけて自分づくりや他者とのかかわりを育みます。

入園考査について

日常生活や遊びを大切に

桐朋幼稚園の入園考査は、前もって特別な準備をしなければならないようなものではありません。2歳の子どもたちが、日常生活や遊びのなかから自然に身につけている感性、行動などを大事に考えています。

私たちは、入園考査のための準備教育を望ましいものではないと考えます。乳幼児期から知識を詰め込ん

桐朋学園の構成



桐朋学園の教育理念は、「一人ひとりの人格を尊重し、自主性を養い、個性を伸長するヒューマンズに立つ『人間教育』」です。私たちは、人間としての無限の可能性を豊かに開花させようとする一貫教育の発想と精神を、建学以来脈々と受け継いでいます。

だり、他者からの評価に縛られたり、できないできないということにとらわれすぎるとは、子どもたちの発達にマイナス作用を及ぼします。

乳幼児期において、ゆったりとした時間を楽しみ、たっぷり遊びこむことを大事にした、その子にとって生き生きと過ごせる生活を送ってほしいと願います。



桐朋幼稚園に入園したら……

Q 保育時間はどのくらいですか？

A 登園は9時00分より、降園はお弁当のない日は11時30分～11時40分（学年によります）、お弁当のある日は年長組で14時00分です。ただし、子どもの年齢や体力を考え、時期や行事などにより変わります。（たとえば、3歳児はお弁当のある日の降園時間は13時から始め、13時30分、13時50分、と徐々に降園時間を延ばしていきます）

Q お弁当の日は週に何日ですか？

A 4、5歳児は火・木・金の週3日がお弁当の日です。3歳児は、入園したばかりのころは週1回から始め、次第に回数を増やしていきます。2学期の中頃までは火・木のお週2回です。2学期後半より火・木・金の週3回のお弁当が増えていきます。ゆっくりしたペースですが、静かな落ち着いた雰囲気、みんなと一緒に食べる楽しさや、マナーの必要性を感じられるようにするためです。家庭からお弁当を持参していただきます。



Q 通園方法について知りたいです

A 登降園は、親子で手をつなぎ、いろいろな話をしたり、四季の移ろいを感じたりする、大切な時間です。徒歩を中心に、バスや電車といった公共交通機関を利用しながら、社会的な経験も積みます。申請をすれば自転車や自家用車も使用することができます。

Q 預かり保育はありますか？

A 2022年度より、預かり保育を始めました。定員（2025年度時点で最大21名）を設けており、通常の保育終了後より最大17時までの預かりが可能です。預かり保育専属のスタッフが担当しています。午前保育日は預かり保育でお弁当を食べます。早朝の預かり保育はございません。

Q 園内の安全について知りたいのですが……

A 怪我や事故には、保育者や養護教諭が対応します。状況に応じて、おうちの方と連絡を取り合い、近隣の病院で速やかに処置をします。また、モニターカメラ、警備員巡回、警報ベルなどにより、常に安全を把握しています。さらに、非常時の災害に対応するために、「幼稚園 緊急時の対策」を作っています。保育中の避難訓練や、保護者参加の引き取り訓練もおこなっています。

※桐朋幼稚園の保育を知っていただくために、幼稚園説明会や保育見学会を複数回行っています。日時や入園審査などについて、詳しくはホームページをご覧ください。

桐朋幼稚園のあゆみ

- | | |
|--|---|
| <p>1940年 山下汽船株式会社山下亀三郎氏による陸海軍への献金を基に、財団法人山水育英会(桐朋学園の前身)を設立。</p> <p>1941年 山水育英会は軍人の子弟子女の教育を目的として、山水高等女学校を仙川に、山水中学校を国立に設立。</p> <p>1942年 仙川の現在地に全校舎の建築が完了。</p> <p>1947年 終戦により山水育英会は東京教育大学(当時の東京文理科大学・東京高等師範学校)に移管。財団法人桐朋学園が誕生。</p> <p>1948年 学制改革により、桐朋女子中学校・桐朋女子高等学校を併設。</p> <p>1951年 私立学校法の施行により、財団法人から学校法人桐朋学園に改組。</p> <p>1955年 幼・小・中・高校の一貫教育体制を目指して、普通科に桐朋幼稚園・桐朋小学校(初等部)を設置。</p> <p>1965年 初等部創立10周年記念式・音楽会を開催。</p> <p>1975年 初等部創立20周年記念式を開催。</p> <p>1985年 初等部創立30周年記念行事・祝賀会を開催。『桐朋幼稚園・小学校の教育』『桐朋幼稚園の教育・実践と研究の展開(総論)』を刊行。</p> <p>1987年 『桐朋幼稚園の教育・音楽性・自主性・集団性の育ちの追究』を刊行。</p> | <p>1989年 『桐朋幼稚園の教育・生活する力ーその育ちの追究』を刊行。</p> <p>1991年 『桐朋幼稚園の教育・心の解放と造形的な表現ーその育ちの追究』を刊行。</p> <p>1995年 初等部創立40周年記念行事・祝賀会を開催。記念誌『子どもの四季』を刊行。『桐朋幼稚園の教育・保育のみなおしー子どもの姿と育ちの追究ー』を刊行。</p> <p>2005年 初等部創立50周年記念行事・祝賀会を開催。記念誌『明日を創る子どもたち』を刊行。『桐朋幼稚園の教育 幼児の生活とカリキュラム』を刊行。『初等部ブックレット』を2冊刊行。</p> <p>2015年 初等部創立60周年記念行事・祝賀会を開催。</p> <p>2018年 3年保育をスタートし、各学年の定員を26名に変更。『一人ひとりの、幸せな子ども時代のために』(初等部ブックレット幼稚園編)を刊行。</p> <p>2020年 制服を廃止(園指定の制帽、活動着ズボン、通園カバンは使用)。</p> <p>2022年 預かり保育「きりっこくらぶ」を開始。</p> <p>2025年 初等部創立70周年記念行事を開催。</p> |
|--|---|

仙川キャンパスの案内図





学校法人
桐朋学園 初等部

〒182-8510 東京都調布市若葉町1-41-1

TEL 03-3300-2111 (代表)



桐朋幼稚園ホームページ
<https://yochien.toho.ac.jp/>



桐朋小学校ホームページ
<https://shogakko.toho.ac.jp/>

ACCESS

- 京王線「仙川」駅下車
- 小田急線「成城学園前」駅／「狛江」駅、
京王線「調布」駅より
小田急バス「仙川駅入口」下車
- JR「吉祥寺」駅より小田急バス「仙川」下車
- JR「三鷹」駅より小田急バス「仙川」下車

